

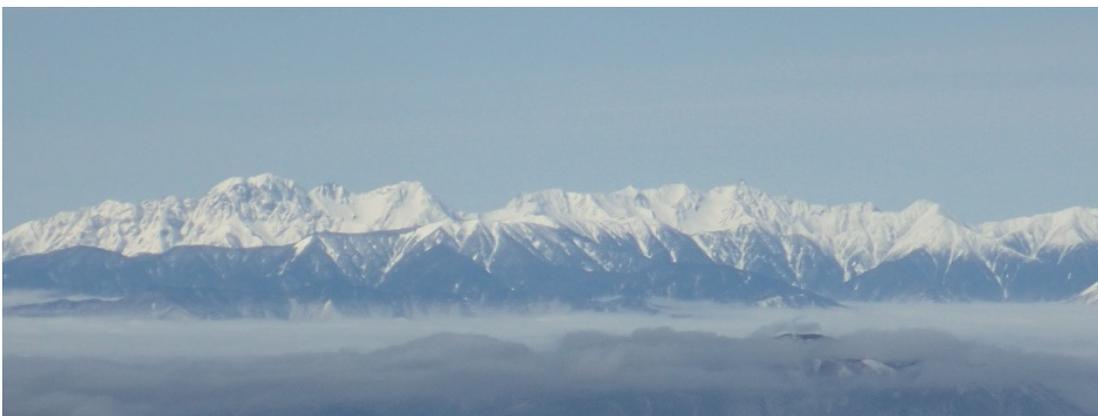
(3) 58 歳 (平成 9 年) 真似し、習い、山歩きが広がる

・ヴェテランの S さんを真似る

雪の八ヶ岳や日本アルプスを見ると、誰でも登りたくなるのではないかな。



行者小屋からの赤岳



天狗岳からの穂高岳・槍ヶ岳の稜線

そのためには技術を身につけなければならない。幸いなことに地域の山岳会で鍛えたヴェテランの S さん(以下、S さん)と同行できることになり、山行中に技術を習うだけでなく、装備、体力、生活技術等を真似し、習うことができた。

・都岳連の講習を受ける

山行の範囲を広げ、かつ安全を確保するため、S さんの勧めにより岩沢と雪山登行の基礎的な訓練を受けることにした。60 歳の年齢制限ギリギリであったが、東京都山岳連盟の初級雪山、初級岩登り、中級雪山にそれぞれ半年通った。講師も立派で、シラバス(講習の内容)も良く準備さ

れていて得るところが多かった。

加えて年齢の近い、酒好きのなかまができ、講習を修了しても山行や街中での飲み会が長年続いた。



東京都山岳連盟
初級岩沢教室

・堀田弘司ガイドに岩登りの楽しさを習う

生来の高所恐怖症に加え、運動神経が鈍く、覚
えも悪いので、岩登りがきわめて不得意である。
都岳連講習なかまから紹介してもらった堀田弘
司ガイドから三ツ峠や前穂高北尾根、北穂東
陵、滝谷バットレスで実践技術を習った。おかげ
でロープがつながっていると、恐怖感が和らぐよ
うになった。しかし、習ったことをすぐ忘れ、相変
わらず下手である。また特に好きというわけでは
ないが、ロープワークは重要なので、機会があれば参加した。



・山歩きの深みを教えられ、歩ける山域が広がった

Sさんと、その山岳会なかまのヴェテランのAさんと一緒させていただくようになり、山歩きの深
みを教えられ、そして歩ける山域が広がった。11月に岳沢から穂高岳を周回する、厳冬期に鹿島
槍ヶ岳に登る等は想像もできないことであった。

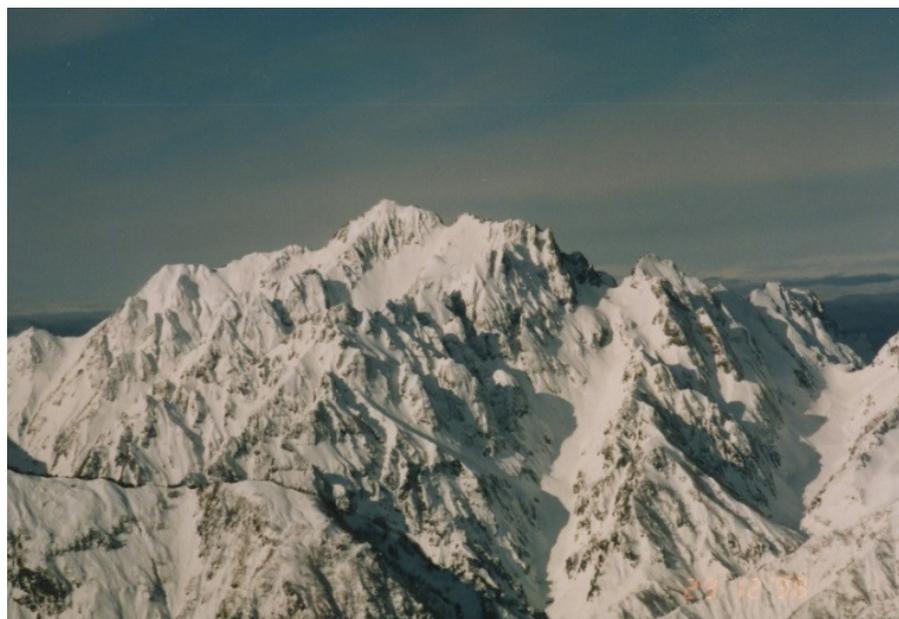


11月に岳沢から前穂高岳、奥穂高岳、天狗のコルを周回する



年末に爺ヶ岳東尾根から鹿島槍ヶ岳を往復する

鹿島槍ヶ岳からの剣岳



・向上心が芽生えた？

真似る、習う、慣れることにより、山歩きの深みを学び、山歩きの山域が広がった。そのモチベーションは何であろうか？ この齢で向上心が芽生えたのだろうか。

山歩きの山域を広げるためには、メタボ体質の改善が必要であると観念し、遅ればせながら早朝1時間のウォーキングを始めたのもこの頃である。

・日本アルプス縦走路を歩き始める

真似し、習いながら、機会をつくり、日本アルプスの縦走路を歩くようになった。最初は営業山小屋を利用したが、混む、汚い、騒がしい等を嫌い、すぐに露営(テント泊)するようになった。なかまと一緒のこともあるが、単独が多い。

条件が整っている場合は次のように意欲的に長時間歩いた。これは後日長時間行動を強いられた時に役に立った。

中央アルプス 檜尾岳～越百山～林道ゲート 14 時間

南アルプス 熊野平～蝙蝠岳～二軒小屋 13 時間

北アルプス 雪倉岳避難小屋～朝日岳～白鳥山 16 時間

58 歳から歩き始め、70 歳までにおおむね主要な縦走路は歩き、結果として北アルプスの三大急登、三大キレット

劔岳早月尾根、・烏帽子岳ブナ立尾根・燕岳合戦尾根

大キレット・八峰キレット・不帰キレット

も歩いているが、まだ北アルプスの水晶岳の奥や餓鬼岳の奥や中央アルプス越百山の南部や南アルプス光岳の南部などが残っている。



蝙蝠岳(南アルプス)からの富士山



[\(目次に戻る\)](#)

[\(次項に進む\)](#)